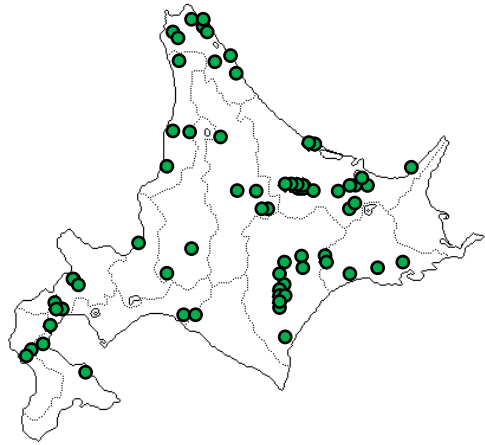


すき取り物による盛土法面の緑化工

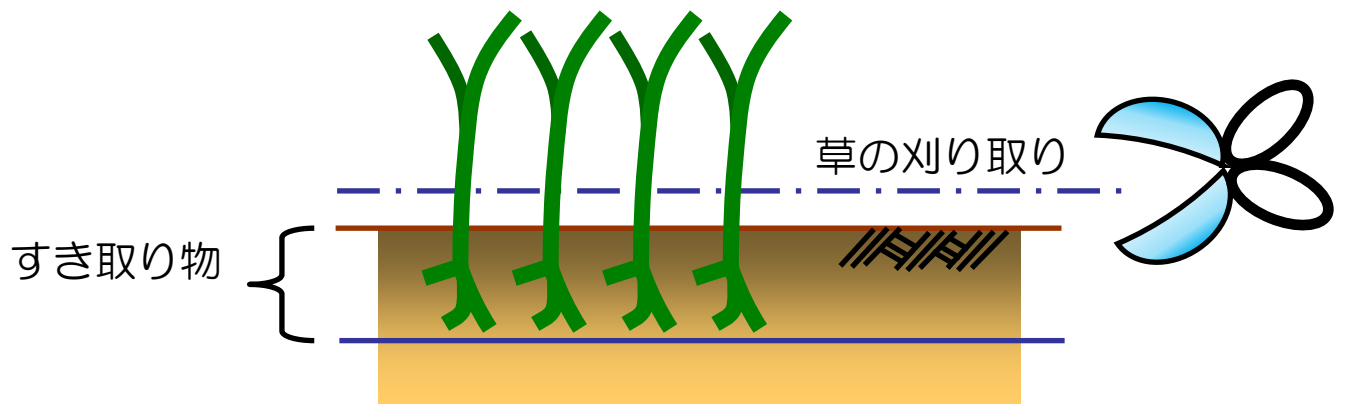
建設工事により発生する「すき取り物」は、有機物を含んでいるため盛土材として利用できなく廃棄物として処分してきました。「すき取り物」を緑化材料として工事に利用できれば、資源を有効活用するだけでなく、施工場所付近の緑化環境の回復・再生につながり、自然環境や生態系に配慮した工法です。

「すき取り物」を盛土法面の緑化材料として利用するために多数の現場で試験施工し、盛土の土質や「すき取り物」の種類、施工時期にかかわらず、すき取り物を緑化材料として利用できるとわかりましたので、その技術について紹介します。

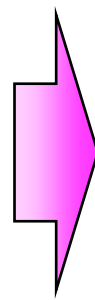
◆試験施工箇所



◆施工イメージ図



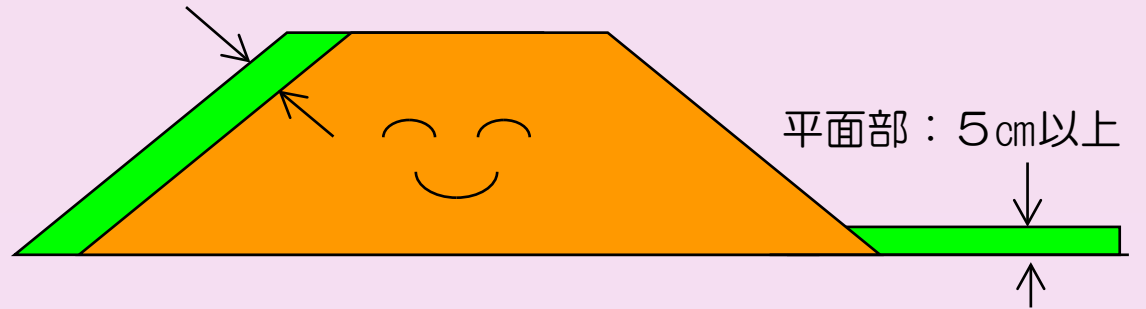
◆施工手順



◆使用条件

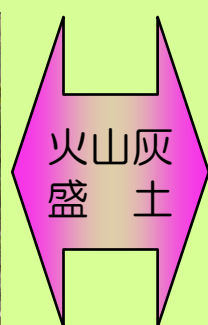
- 植物の種類 ⇒ **すべてOK**
- 施工時期 ⇒ **いつでもOK**
- 法面部 ⇒ **施工厚さ 20~30cm**
法面勾配 1:1.5以上
- 平面部 ⇒ **施工厚さ 5cm以上**

法面部：20~30cm (10cmまで薄層施工が可能)



◆施工後の状況

施工後の法面の浸食状況



雪解け時および雪解け後の生育の状況

